

公共事業再評価調査

整理番号 H25 - 15

担当部課名	県土整備部 河川砂防課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 6 3
		E - MAIL	kasensabo @pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 (1 0 年)	再評価後 (年)	その他 ()
---------	-----	----------------	------------	---------

1 事業概要

事業種別	河川事業	事業主体	県 市町村 其他 ()																																																
事業名	広域河川改修事業	地区名等	浅水川(五戸工区) 市町村名 五戸町																																																
事業方法	国庫補助 交付金 県単独 財源・負担区分	国 50 % 県 50 % 市町村 % 其他 %																																																	
採択年度	平成 16 年度 (用地着手 平成 19 年度 / 工事着手 平成 19 年度)																																																		
終了予定年度	平成 28 年度 (平成 年 月 工期変更 当初計画時 平成 年度)																																																		
事業目的	浅水川は、三戸町野沢平付近に源を發し、八戸市尻内地区で馬淵川に合流する流域面積122.3km ² 、流路延長約34kmの - 級河川である。また、浅水川が合流する馬淵川下流部は、大臣管理区間であり、概ね約40年に1回の確率で発生する規模の洪水による災害発生の防止及び軽減を整備目標としている。 当事業区間は、河積が狭小で、これまでも度々水害が発生していることから、自然環境に配慮しながら河川改修工事を実施し、概ね20年に1回の確率で発生すると予想される規模の洪水を安全に流下させ、浅水川沿川の人家や田畑を浸水被害から守るものである。																																																		
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>当初計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削</td> <td>111,750 m³</td> <td>111,750 m³</td> <td>0 m³</td> </tr> <tr> <td>樋門</td> <td>26 基</td> <td>26 基</td> <td>0 基</td> </tr> <tr> <td>道路橋</td> <td>7 箇所</td> <td>7 箇所</td> <td>0 箇所</td> </tr> <tr> <td>堰</td> <td>1 基</td> <td>1 基</td> <td>0 基</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容は、当初計画時と比較して変更はない。 総事業費は、事業の進捗に伴い、建設費を精査した結果、増加となった。 【計画確率規模：1/20】</p>			区 分	当初計画時	再評価時	増 減	掘削	111,750 m ³	111,750 m ³	0 m ³	樋門	26 基	26 基	0 基	道路橋	7 箇所	7 箇所	0 箇所	堰	1 基	1 基	0 基																												
区 分	当初計画時	再評価時	増 減																																																
掘削	111,750 m ³	111,750 m ³	0 m ³																																																
樋門	26 基	26 基	0 基																																																
道路橋	7 箇所	7 箇所	0 箇所																																																
堰	1 基	1 基	0 基																																																
事業費	<p>当初計画時総事業費 2,500 百万円 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>~ 22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>小 計</th> <th>26年度~</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3,074</td> <td>126</td> <td>3,200</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>(203)</td> <td>(8)</td> <td>(211)</td> </tr> <tr> <td>平成25年2月変更</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>1,822</td> <td>220</td> <td>380</td> <td>120</td> <td>2,542</td> <td>658</td> <td>3,200</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>(155)</td> <td>(21)</td> <td>(20)</td> <td>(10)</td> <td>(206)</td> <td>(5)</td> <td>(211)</td> </tr> </tbody> </table>				~ 22年度	23年度	24年度	25年度	小 計	26年度~	合 計	計 画					3,074	126	3,200	(うち用地費)	()	()	()	()	(203)	(8)	(211)	平成25年2月変更								実 績	1,822	220	380	120	2,542	658	3,200	(うち用地費)	(155)	(21)	(20)	(10)	(206)	(5)	(211)
	~ 22年度	23年度	24年度	25年度	小 計	26年度~	合 計																																												
計 画					3,074	126	3,200																																												
(うち用地費)	()	()	()	()	(203)	(8)	(211)																																												
平成25年2月変更																																																			
実 績	1,822	220	380	120	2,542	658	3,200																																												
(うち用地費)	(155)	(21)	(20)	(10)	(206)	(5)	(211)																																												

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) · B · C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
			79.4 % [/]	82.7 % [/]
			(97.6 %) [/]	(101.5 %) [/]
	主要工程 毎割合 (事業費)	掘削工 (96.6百万円)	77.6 %	80.7 %
		樋門 (233.6百万円)	68.2 %	71.0 %
道路橋 (399.9百万円)		66.7 %	69.4 %	
堰 (202.0百万円)		100.0 %	100.0 %	
説 明	<ul style="list-style-type: none"> ・下流端から約1,800mまでの区間において改修を完了し、上流部に集中する樋門の改築を実施しており、事業は計画どおりに進んでいる。 ・今後は、上流区間において、景観や環境に配慮して改修を進める。 			
問題点・ 解決見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を進めるにあたっての阻害要因はなく、順調に事業の進捗を図ることが出来る。 			
事業効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・下流端から約1,800mまでの区間で改修が完了しており、近年の大雨においても当該区間では浸水被害が発生しておらず、一連の効果を発揮している。 			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】</p> <p>近年の異常気象により、全国各地で局地的豪雨等による浸水被害が発生しており、これら河川の災害対策及び治水安全度の向上が急務となっている。</p> <p>近年の河川環境に配慮した河川整備に対する関心の高まりに対し、自然環境に配慮した河川整備が求められている。</p>	<p>【県内の評価】</p> <p>県内においても、平成16年、平成18年、平成23年等の豪雨による浸水被害が各地で発生しており、今後も治水安全度の向上を図るため、河川改良事業を進めていく必要がある。</p> <p>地域住民の河川環境への関心は高く、自然環境に配慮した河川整備が求められている。</p>	
	当地区における評価	<p>・現況の流下能力が低いため、平成11年10月(浸水家屋 床下119戸、床上207戸、浸水面積469.1ha)と、甚大な浸水被害を受けており、治水安全度の向上が急務となっている。</p>		
必要性		<p>・浅水川は一級河川であるが、本事業区間は国直轄管理区間外で、河川管理者は県であることから、事業主体は青森県となる。</p> <p>・想定氾濫区域内には人家が約75戸あり、想定氾濫被害額は約146億円と見込まれる。</p> <p>・浅水川の治水対策は、局部改良事業、災害復旧助成事業(昭和42・43年)等により、馬淵川合流点から上流8.4kmまで一次改修が進められていたが、平成11年度に甚大な浸水被害が発生した。この水害を契機として、河川災害復旧等関連緊急事業等により馬淵川合流点から滝谷橋まで改修を行ったが、本事業区間である滝谷橋上流においては未だ治水安全度は低い。</p>		(a) . b
適時性		<p>・浅水川沿川では、平成11年10月(浸水家屋 床下119戸、床上207戸、浸水面積469.1ha)に甚大な浸水被害が発生している。これを受けた下流側の改修が平成15年度で完成したこと、また、平成17年度から着手のほ場整備事業と連携することにより、効率よく事業を進めることが出来る。</p> <p>・未改修区間の現況流下能力は、計画高水流量210m³/sに対し50%以下である。</p>		(a) . b
地元の推進体制等		<p>・用地買収は約90%以上完了しており、地権者や地域住民は本事業の趣旨や目的を十分理解していただいでおり、円滑に事業が進んでいる。</p>		(a) . b
効率性		<p>・想定氾濫区域内には、県道苔米地免内線等が通っていることから、氾濫時における交通機関への影響が危惧される。</p> <p>・護岸は必要最小限に止めるとともに、河岸は緩い勾配とし植生で覆うなど、川が本来有している生物の良好な生育環境や自然景観の保全に努め、良好な水辺が創出されることにより、地域住民にとっての安らぎの空間が期待できる。</p>		

(3) 費用対効果分析の要因変化

A ・ (B) ・ C

区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1)建設費	1,947 百万円	3,558 百万円	1,611 百万円
	(2)維持費	161 百万円	413 百万円	252 百万円
	(3)残存価値	-49 百万円	百万円	49 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	2,059 百万円	3,971 百万円	1,912 百万円
便益項目 (B)	(1)治水	4,863 百万円	5,583 百万円	720 百万円
	(2)残存価値	百万円	24 百万円	24 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	4,863 百万円	5,607 百万円	744 百万円
B / C		2.36	1.41	
費用対効果分析 (B / C)	<p>【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等)</p> <p>・治水経済調査マニュアル(案):平成17年4月(国土交通省 河川局)</p> <p>・各種資産評価単価及びデフレーター:平成25年2月(国土交通省 河川局)</p>			(a) . b
計画時との比較	<p>【計画時との比較における要因変化】</p> <p>・建設費の費用の増は、精査による総事業費の増及び評価基準年の見直しに伴う増である。</p> <p>・治水の便益の増は、評価基準年の見直しに伴う増である。</p>			a (b)

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A) ・ B ・ C

コスト縮減	<p>【コスト縮減の検討状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 河床掘削等による発生土を築堤に流用し、経費の縮減を図っている。 管理用道路の路盤材に再生砕石を使用し経費の縮減を図っている。 	(a) . b
代替案	<p>【代替案の検討状況】</p> <p>分水路案：住家が支障になるため、地域住民に及ぼす影響が大きい。</p>	(a) . b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A) ・ B ・ C

住民ニーズの把握状況	<p>【住民ニーズの把握方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区毎に工事説明会や用地説明会を開催し、地区住民の意見を聞くと共に、個別の用地交渉の場においても住民の要望等を把握している。 	<p>【住民ニーズ・意見】</p> <p>洪水の被害を度々うけているため、事業の早期完成を望む声が多い。</p>	(a) . b															
環境影響への配慮	<p>【開発事業等における環境配慮指針への対応】</p> <p>(1)対応状況 配慮している 配慮していない</p> <p>(2)区分</p> <table border="0"> <tr> <td>農林地等の緑地や植生の改変</td> <td>地形や地盤の改変</td> <td>水系や水辺の変更</td> </tr> <tr> <td>海域環境の変更</td> <td>敷地整備段階での重機の使用</td> <td>土砂等の搬出・搬入</td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理等</td> <td>道路(車歩道)、雨水排水路の設置</td> <td>基礎や地下建造物の建設</td> </tr> <tr> <td>低層建築物の建設</td> <td colspan="2">高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮</td> </tr> <tr> <td>高架構造物の建設</td> <td colspan="2">海底・海中建造物の設置や建設</td> </tr> </table> <p>(3)特に配慮する対応内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 護岸は必要最小限に止めるとともに、河岸は緩い勾配とし植生で覆うなど、川が本来有している生物の良好な生育環境や自然景観の保全に努める。 工事を行う際には、地域の生活環境に配慮し、低排出ガス、低騒音、低振動の重機械を使用する。 		農林地等の緑地や植生の改変	地形や地盤の改変	水系や水辺の変更	海域環境の変更	敷地整備段階での重機の使用	土砂等の搬出・搬入	廃棄物処理等	道路(車歩道)、雨水排水路の設置	基礎や地下建造物の建設	低層建築物の建設	高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮		高架構造物の建設	海底・海中建造物の設置や建設		(a) . b
農林地等の緑地や植生の改変	地形や地盤の改変	水系や水辺の変更																
海域環境の変更	敷地整備段階での重機の使用	土砂等の搬出・搬入																
廃棄物処理等	道路(車歩道)、雨水排水路の設置	基礎や地下建造物の建設																
低層建築物の建設	高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮																	
高架構造物の建設	海底・海中建造物の設置や建設																	
地域の立地特性	<p>(地域指定)都市計画区域、豪雪地帯</p> <p>(災害の記録)H11.10 浸水面積 浸水戸数 床下119戸、床上207戸、浸水面積469ha) (本事業により対応)</p> <p>(危険箇所情報)なし</p>																	

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続 計画変更 中止 休止
評価理由	費用対効果分析の要因変化がB評価であるものの、浅水川の治水安全度は低く、沿川住民の生命財産を洪水被害から守る本事業は、継続して実施する必要がある。
備考	

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	継続 計画変更 中止 休止
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)